

交換留学生のための学習支援の取り組み — 教員と学生の意識調査をもとに —

鈴木 美穂 竹田 裕姫

(外国語学部日本語・日本語教育学科、留学生別科)

Japanese Language as Learning Support for Exchange Students — Based on Surveys of Teachers and Students —

Miho SUZUKI, Yasuyo TAKEDA

(Department of Japanese and Japanese Language Education, International Division)

本学留学生別科は、交換留学生を対象とした日本語学習支援クラスを開講している。学期終了時に行っている授業評価アンケートで、学習支援クラス以外の学部の授業を理解するために必要な日本語技能の向上を求める学生が多いことがわかってきた。学部の授業に対応できる日本語力の指導のためには学生のニーズだけではなく実際に学部の授業を担当している教員が交換留学生に求める日本語力についても考えていかなければならないと感じ、本学教員に学部講義やゼミに求める日本語力は何かについてアンケートを行った。

本稿では、2015年度日本語教育学会第7回日本語教育研究集会で行ったポスター発表をもとに、交換留学生、教員2つの調査結果から学部の授業に必要な日本語力は何かを明確にし、現在までの日本語学習支援クラスの取り組みと今後の交換留学生日本語学習支援クラスの役割について考察する。

キーワード：日本語、交換留学生、日本語教育、日本語学習支援

はじめに

本学留学生別科では2014年度から交換留学生対象の日本語学習支援クラス（以下N1Sクラス）を開講している。学期末に授業評価アンケートやインタビューを実施し、授業を振り返り、次学期N1SクラスのカOURSEデザインに反映している。アンケート調査などを通して日本語学習以外の通常の学部授業での日本語の難しさについての声が目立つようになり、同様に、学部授業を担当している教員から、交換留学生の日本語について話をうかがう機会も増えてきている。このような現状から、改めてN1Sクラスの日本語指導について考えなければならぬと感じた。交換留学生だけでなく、学部の授業を担当している教員にも交換留学生の現状を訊ね、学部

の授業ではどのような日本語力が必要なのか、そのためにはどのような指導が必要なのか、N1Sクラスの担う役割や可能性についても合わせて考察する。

1. N1Sクラス概要

(1) 目的

日本語レベル上級の交換留学生の日本語力をさらに高めるため、また、学部授業をしっかりと理解し、参加できる日本語力を身につけるための日本語学習支援クラスとして開設された。

(2) 指導内容

授業は60分×4コマで、本学留学生別科の教員が指導にあっている。N1Sクラス開設前に行っ

た事前アンケート調査（竹田・鈴木，2015）で交換留学生からの希望が多かった読解技術、口頭表現、文化体験を中心とした指導を行っている。読解教材は『上級学習者のための日本語ワークブック』（アルク）を用い日本語、日本文化・行動、言語、環境、コミュニケーションなど幅広いトピックを選定し学部授業のテキストや論文を読んで理解できる力を養う指導をしている。口頭表現の指導ではフィールドワーク（グループ発表）、プレゼンテーション、グループディスカッションなどを行い、ゼミや学部授業で必要な発表技術、日本語でグループワークなどができるような会話表現の指導をしている。その他、華道、茶道、浴衣着付けなどの日本文化体験も行っている。

2. 授業評価アンケートとインタビュー

N1Sクラスでは毎学期授業後に授業評価アンケートを行い、今後の授業に役立てている。2014年度秋学期は授業履修者16名のうち13名にアンケート調査を行い、さらにその中から8名にアンケート後にインタビューを行った。

(1) 授業評価アンケート

アンケートでは授業と日本語に関する質問をした（表1）。A-Q1「なぜN1Sクラスを履修しましたか」という記述式の質問には「日本語を勉強したい」、「日本語のレベルを上げるため」というコメントが複数あがっていた。「学部では日本語の授業がなく、日本語が下手だから」、「同じ目標をもって日

本語を勉強する同士N1Sクラスで勉強したかったから」という意見もみられた。A-Q2「N1Sクラスの授業内容は学部の授業に役に立ちましたか」という質問には、30%の学生が「非常に役に立った」、38%の学生が「まあまあ役に立った」と答えており（図1）、N1Sクラスの授業が学部の授業に役立っていることがわかった。A-Q3「N1Sクラスを履修する前と後で日本語に対する考え方が変わりましたか」という質問では70%の学生が「変わった」と答えていた。A-Q4「N1Sクラスを履修して日本語が上手になったと思いますか」という質問では77%の学生が「上手になった」と答えている（図2）。A-Q5「交換留学生にはどのような日本語能力が必要だと思いますか」という記述式の質問では「専門知識」、「聴解」、「文法」、「会話」、「日本人らしい表現・豊かな知識」、「作文能力とビジネス日本語」などさまざまな日本語能力があげられていた。

(2) 授業後インタビュー

授業評価アンケートの回答についてより具体的に

表1 授業評価アンケート質問内容（抜粋）

A-Q1	なぜN1Sクラスを履修しましたか。（記述式）
A-Q2	N1Sクラスの授業内容は学部の授業に役に立ちましたか。
A-Q3	N1Sクラスを履修する前と後で日本語に対する考え方が変わりましたか。
A-Q4	N1Sクラスを履修して日本語が上手になったと思いますか。
A-Q5	交換留学生にはどのような日本語能力が必要だと思いますか。（記述式）

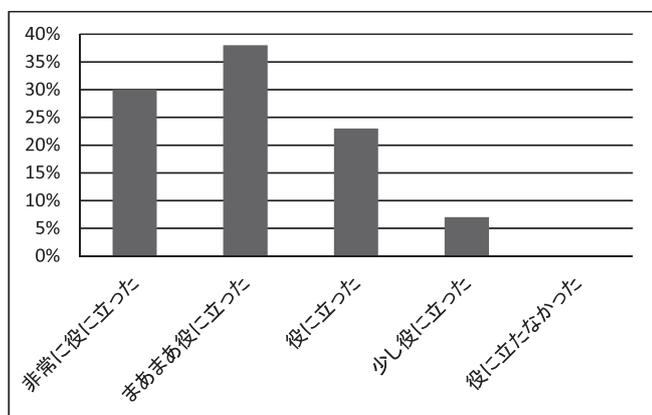


図1 授業評価アンケート（表1 A-Q2の結果）
（図1～2 回答者13名）

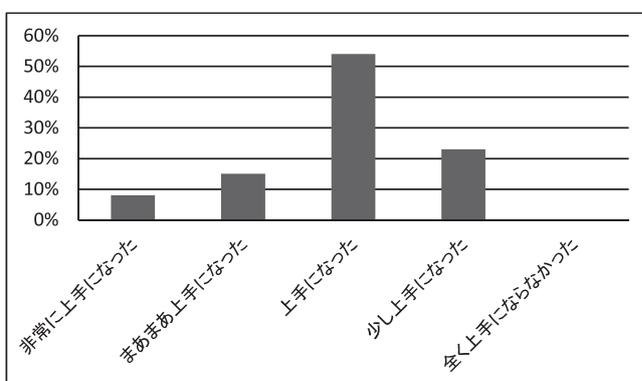


図2 授業評価アンケート（表1 A-Q4の結果）

知るため、2014年度秋学期終了後にアンケートを行った13名のうち8名に、前述したアンケートの質問項目をさらに掘り下げてインタビューした(表2)。

B-Q1「なぜN1Sクラスを履修しましたか」ではアンケートA-Q1の回答とほぼ同様で、「日本語レベルアップのため」、「大学の講義を受けるための日本語能力が足りないから」、「学部の授業を受けるには不安だったから」という回答だった。アンケートA-Q2では、ほとんどの学生が「N1Sクラスの授業内容は学部の授業に役に立った」答えていたが、B-Q2では具体的に「N1Sクラスの授業は、学部の授業のどんなことに役立ちましたか」という質問をした。口頭表現に関するものでは複数の学生が「発表の練習ができて良かった」と回答し、「話すことに慣れた」、「質問に答えるとき伝えやすくなった」などコミュニケーションの向上に関する回答があった。また、読解力に関するものでは「(学部授業の)教科書の内容を理解できるようになった」、「学部授業の教科書や論文を読む上で役に立った」という回答、書く技術として「文章を書く能力が向上した」という回答があった。語彙に関するものでは「漢字を読めるようになった」、「学部の授業の教科書を読んだり、先生の話の聞いたりする時、N1Sクラスで勉強した文法や語彙がとても役に立った」という意見もあがった。総合的な回答では、「N1Sクラスの授業と学部授業の内容が重なることがあり、テーマや発表内容が同じでN1Sクラスで勉強したことを使うことができた」、「大学の授業を理解することができた」があった。アンケー

トA-Q3「N1Sクラスを履修する前と後で日本語に対する考え方が変わりましたか」では70%の学生が「変わった」と答えており、インタビューを受けた学生8名のうち7名もその70%に含まれていた。そこでB-Q3「N1Sクラスを履修する前と後で日本語に対する考え方がどのように変わりましたか」という質問をした。「前よりも話す時の語彙が増えた(複数)」、「文章のまとまりや組み立て、段落ごとの内容、分析ができるようになった」、「勉強方法がわかり、自分に合う勉強方法が見つかった」など、すべて日本語に対する考え方が前向きに変化したという回答であった。

アンケートA-Q4と関連したB-Q4「N1Sクラスを履修して、どのような日本語力が向上しましたか」という質問で具体的に向上したと答えた日本語力は「読解(62%)」、「語彙(25%)」、「文法(25%)」、「発表(25%)」の順であった(図3)。この結果から重点的に指導をした読解力が向上したことがうかがえる。また読解をする上で語彙リストを作成し語

表2 授業後インタビュー質問内容(抜粋)

B-Q1	なぜN1Sクラスを履修しましたか。
B-Q2	N1Sクラスの授業は、学部の授業のどんなことに役立ちましたか。
B-Q3	N1Sクラスを履修する前と後で日本語に対する考え方がどのように変わりましたか。
B-Q4	N1Sクラスを履修して、どのような日本語力が向上しましたか。(複数回答)
B-Q5	学部の授業に必要な日本語力は何だと思えますか。(複数回答)

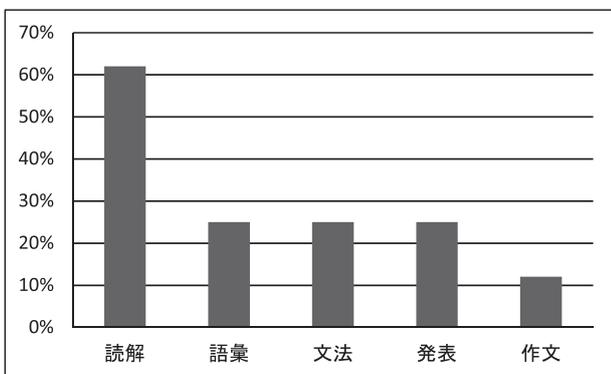


図3 授業後インタビュー(表2 B-Q4の結果)
(図3、4 回答者8名)

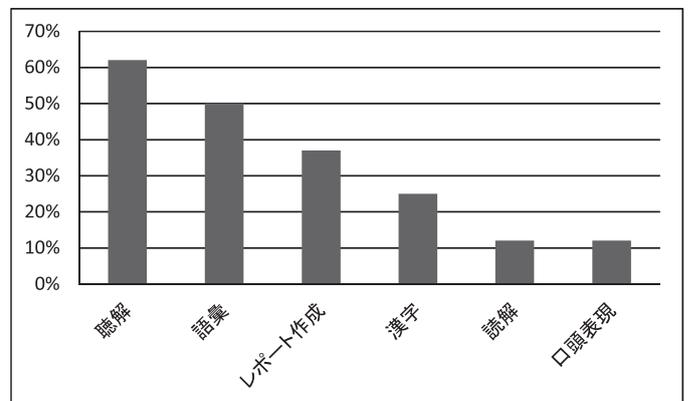


図4 授業後インタビュー(表2 B-Q5の結果)

彙導入を行ったことが語彙力の向上にもつながったと考えられる。アンケート A-Q5「交換留学生にはどのような日本語能力が必要だと思いますか」では、授業に必要な日本語力なのか、留学生活に必要な日本語力なのか問うていなかったため、インタビューではB-Q5「学部の授業に必要な日本語力は何だと思いますか」という質問をした(図4)。留学生が必要だと感じた日本語力は「聴解(62%)」、「語彙(50%)」、「レポート(37%)」、「漢字(25%)」、「読解(12%)」、「発表(12%)」の順であった。「聴解(62%)」をあげた理由としては「学部の先生の話すスピードは早いから(複数)」、「聞き取れないと授業の内容が全然わからないから」、「語彙(50%)」と答えた理由として「先生の話が理解できないから」、「レポート(37%)」を上げた理由として「母国の書き方と違うから」、「学部の試験ではこの形が多いから」、「漢字(25%)」を上げた理由として「授業の内容を理解するため」、「学部授業の教科書が読めないから」と回答していた。

(3) アンケートとインタビューから

アンケートでは把握しきれなかった授業の感想や日本語学習について、インタビューからより詳しく聞くことができ、交換留学生の日本語に対する苦手意識や学部授業に関する不安などを知ることができた。

前述したように、N1Sクラスでは、開設前の調査で希望の多かった読解技術、口頭表現技術を重点的に指導してきたが、学生もその2つの技術が身に付いたと実感していることがうかがえた。一方、指導時間の少なかった聴解技術に関しては学部の授業での必要性も高く、今後は指導を強化していかねばならないと感じた。

3. 教員アンケート

N1Sクラスの授業後のアンケートやインタビューから、交換留学生の学部授業に対する日本語の意識について知り、そこから、交換留学生だけではなく学部授業を担当する教員からも交換留学生に求める日本語力について調査をする必要があると感じた。

2015年春学期に、交換留学生が履修している学

部授業を担当する本学教員17名に「交換留学生に求める日本語力は何か」というアンケート調査を行った(表3)。

(1) アンケート結果

交換留学生に求める日本語力(複数回答)で最も多かったのは「レポート作成(70.6%)」で、次に多かったのは「聴解(58.8%)」だった(図5)。「読解(52.9%)」、「口頭表現(52.9%)」も50%以上の教員が必要であると回答していた。選択肢以外の「その他」では、「和語」、「ITリテラシー」、「敬語」、「授業態度」、「文化習慣の知識」を挙げる教員がいた。アンケートのコメントでは「留学生から話(講義)が難しくわからないというコメントをよく聞く」、「作文が苦手な留学生が多い」、「大学内では問題ないが、社会に出た時に語彙数の足りなさに困るかもしれない」というコメントがあった。

(2) 教員アンケートから

教員が考える、交換留学生に求める日本語力で最も多かった「レポート作成(70.6%)」は、交換留学生が最も必要だと感じる日本語力とは異なっていた。しかし、交換留学生が学部の授業で必要だと感じる日本語力は「聴解」が最も多く、教員アンケートでも「聴解」が2番目に多いことから講義を理解するためにはまず講義を聞く技術が必須であるということがわかった。また、その理解したことを形と

表3 教員アンケート

・交換留学生に求める日本語力は何ですか。(複数回答) 聴解 / レポート作成 / 論文作成 / 会話 / 口頭表現 / 漢字・語彙 / 文法 / 読解 / 文化・習慣 / ノートテイキング / その他

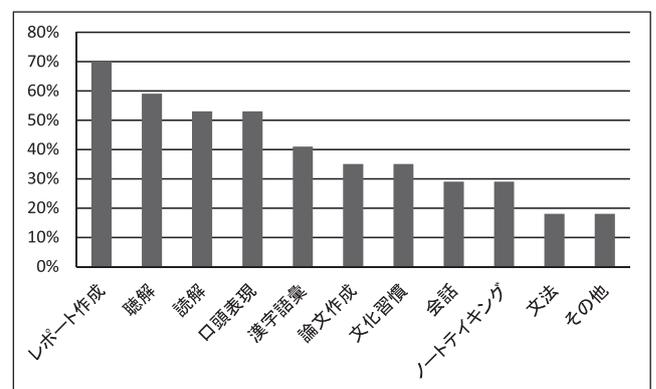


図5 教員アンケート結果 (回答者 17名)

して表すレポート作成技術がともに必要であることがわかった。3番目に多かった「読解 (52.9%)」、「口頭表現 (52.9%)」は今後も引き続き指導をしていく必要がある。

4. 考 察

N1Sクラスで指導をしている日本語力の中で、時間をかけて重点的に指導をしていた読解技術と口頭表現について、交換留学生の前向きなコメントや回答が多かった。読解指導から語彙力と内容理解力が向上し、学部の授業のテキストや講義内容が理解できるようになったこと、口頭表現技術の授業から発表の仕方を学び、ゼミでの発表などがスムーズにできるようになったことなど、N1Sクラスの授業を通して学んだことが学部の授業に直結して役に立っていることがうかがえた。しかし、交換留学生、教員ともに学部の授業での必要性が高かった聴解技術に関しては指導時間、指導内容が不十分である。学部の講義は日本語学習の授業とは異なり、話すスピードや語彙のコントロールがされていない自然な日本語をその場で聞いて理解していかなければならない。このような聴解力を養うために、2015年度秋学期から、まとまった内容をメモを取りながら2、3回聞き、それを再現する聴解技術（ディクトグロス）や、短いニュースを聞いて内容を把握する聴解技術の指導を取り入れている。

また、N1Sクラスを履修した後に日本語に対する考え方が変わった学生が多かったこと、日本語力が向上したと答えた学生が多かったことから、N1Sクラスの履修目的（A-Q1）で多かった「日本語力向上のため」という希望に沿った授業であるということもうかがえた。

教員が考える交換留学生に必要な日本語力で最も多かったのは「レポート作成 (70.6%)」であるが、これは交換留学生の授業理解度を形にしてはかることができる手段のひとつでもある。授業を理解していなければレポートを作成するのは難しいが、交換留学生は、まず講義の中の日本語を理解し、次に講義の内容を理解し、さらにその理解したことをレポートにまとめなければならない。学部講義の学期末のレポート課題に取り組む前に、短い論文を読ん

でまとめる、授業で話し合った内容をまとめる、1回の講義の内容をまとめる等の小さなまとまった文章を書く力を養い、書く事に慣れ、そこから大きな課題に取り組めるような指導が必要である。

5. 今後の課題

現在、N1Sクラスでは読解技術と口頭表現技術を中心に指導しているが、今回のアンケートやインタビューをもとに指導内容の見直しをはかっている。限られた授業時間の中で、学部の授業に必要な日本語力を身につけるために読解技術と口頭表現技術の指導に加え、聴解技術と文章表現技術の力を養う指導をバランスよく取り入れていきたい。聴解技術では、特に「日本語で講義を聞く」技術、そして文章表現技術では、読解指導で使用している教材を利用し内容をまとめる技術や、意見文を書く技術などレポート作成に関する指導を取り入れたい。

交換留学生の日本語レベルや学部の授業で不安に感じていることを把握するためには、交換留学生が所属する学部との連携が必須であり、今後も学部の教員に対してアンケートやインタビューを実施し、調査、分析を続ける必要がある。同様に、交換留学生に対しても引き続きアンケートやインタビューを実施し、教員と交換留学生両者のニーズに沿うような日本語学習支援をしていきたい。

現在、N1Sクラスは学部の授業としてではなく、留学生別科の授業として開講されている。派遣元の大学によっては留学生別科の授業は学部の授業ではないため、単位を認めないとする大学もあり、N1Sの授業を履修したくても履修できない学生もいる。多くの学生がN1Sクラスを学部の授業として履修できるようにカリキュラムの整備をしていくことも視野に入れなければならない。

交換留学生が学部の授業を支障なく受講し、講義を理解できる日本語力を身につけるための支援をしていくことが、本学の日本語学習支援クラスの役割であると考えられる。

《参考文献》

竹田・鈴木 (2015) 「学習支援としてのアカデミッ

クジャパニーズ-交換留学生を対象に-」, 『高等教育研究』, 第22号, 目白大学教育研究所, p.27-33
謝辞

多忙な業務の中、アンケートに協力してくださった本学の先生方に感謝の意を表したい。

【付記】

本稿は平成27年度日本語教育学会第7回研究集会のポスター発表をもとにまとめたものである。
(受付日:2016年10月28日、受理日2016年12月12日)